

## トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

## 「水都おおさか森林の市 2018」開催

### 【技術普及課】

10月28日（日）に、秋晴れの穏やかな天気の下、「水都おおさか森林の市 2018」（主催：水都おおさか森林づくり・木づかい実行委員会）を開催しました。

大阪市は、江戸時代以降「水の都」と呼ばれ、琵琶湖の水の恩恵を受けて発達した水路を利用した交易により発展してきました。

琵琶湖が豊かな水を蓄え続けられてきたのは、森林の恩恵であると考えられます。「森林の市」では、そうした森林の恵みや木に一般の方々が触れていただくことで、森林と人とのつながりや大切さを実感していただくことなどを通じて、豊かな森林資源を次世代に引き継いでいくことを目的に実施しています。昭和62年からスタートした「森林の市」は、今年で32回目を数えます。

今年は、近畿圏内のほか中四国や東海地域から52団体に、鹿肉バーガーの試食、木製品・地域の特産品等の販売、クラフト作りや丸太切り体験などの出展をしていただきました。

このほか、各ブースを巡るスタンプラリーで参加できる「当たって学べる森林のガチャガチャ抽選会」では、森林、山、木にまつわる豪華景品を手に入れようと、小さなお子さんから御年配まで幅広い年齢層の方々による長蛇の列ができていました。

また、ゲストとして参加いただいた「ミス日本みどりの女神」竹川智世さんと「2018 ミス日本酒」の須藤亜紗実さんのお二方に、会場内の各ブース等で森林・林業・木材の大切さと魅力について、来場者の皆様へPRしていただきました。



オープニングセレモニーでのテープカットの様子



各ブースを巡る「ミス日本みどりの女神」と「2018 ミス日本酒」

さらに、10月26日～28日の間、天王寺公園において奈良県十津川村が主催する「十津川村公園」イベントとも連携・協力し、集客の相乗効果を狙ったPRを展開しました。

当日は、森林の市のオープニングセレモニーに更谷十津川村長をお招きし、テープカットを行っていただきました。また、近畿中国森林管理局からも高野局長が十津川村公園を訪問し、十津川村の木で作られた木製遊具で遊ぶ子ども達を見ながら、ほのぼのとした雰囲気の会場を見学させていただきました。

今年はお子様連れのご家族の参加が多く見られ、約30,000人（主催者発表）の方に御来場いただき、各ブースとも活気にあふれていました。来場者の方々からは、「ガチャガチャ抽選会が楽しかった」、「鹿肉バーガーやジビエ料理がおいしかった」、「クラフト作り体験ができて、子どもがとても喜んでいました」、「森林や木材について知ることができた」、「行きたいブースが多くて回りきれないので2日間の開催にして欲しい」など、たくさんのご意見やご感想をいただきました。



「おめでとう」ガチャガチャ抽選会



木製品で遊ぶ子ども達で賑わうギャラリー



水源の森ジオラマ作りに奮闘する子ども達



上手に釘が打てたかな？



この木、何の木かな？



会場の様子

## 「桶・樽×日本酒×木の文化」

～「桶・樽」の日本酒を支える「木の文化」の継承・発展に向けた円卓会議を開催～

### 【企画調整課 / 資源活用課】

10月28日(日)、水都おおさか森林の市の併設イベントとして、「桶・樽の日本酒を支える木の文化」をテーマとしたシンポジウムを、近畿中国森林管理局が主催し、(一社)国土緑化推進機構の協力を得て開催しました。林業、製材、蔵元、酒店、研究者、行政などの関係者10名が、それぞれの取組を紹介した後に意見交換が行われました。東京から来られた方もあり、約100名が傍聴されました。また、会場には、「ミス日本みどりの女神」の竹川智世さんと「2018ミス日本酒」の須藤亜紗実さんも駆けつけて円卓会議を盛り上げてくれました。

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されていますが、その「和食」における日本酒のほか、味噌、醤油などの発酵・醸造文化を下支えする桶・樽などの「木の文化」に焦点をあてて今回のシンポジウムを企画しました。

蔵元からは桶等の木を活かした醸造の価値を熱く語られ、自ら桶・樽職人を抱えて、継承に取り組んでいる事例、林業・木材関係者からは桶・樽に適した年輪幅の細かい木材生産について、また、研究者からは木桶醸造や木樽保管の利点や欠点などの研究成果が紹介され、参加者は興味深く聞き入っておられました。



「ミス日本みどりの女神」の竹川智世さんと「ミス日本酒」の須藤亜紗実さん(左)

意見交換では、林業・木材関係者や酒造業界が桶・樽をきっかけに、木の文化の継承に向けて協力できる可能性が示されました。参加された方からは、「木材が酒造りにここまで深く関わっているとは思わなかった」、「林業の育林での工夫が良く理解できた」などのご意見が寄せられました。

◆登壇者の方々 岡橋 克純さん<清光林業(株)代表取締役社長> 石橋 輝一さん<吉野中央木材(株)専務取締役> 嘉納 治郎右衛門さん<菊正宗酒造(株)代表取締役社長> 白樫 政孝さん<剣菱酒造(株)代表取締役社長> 橋本 芳廣さん<美吉野醸造(株)顧問> 井上 勝利さん<山中酒の店・佳酒真楽さかふね店長>

大平 辰朗さん<(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 関西支所支所長>

室垣内 清明さん<奈良県森林技術センター 所長>

宮本 憲一さん<奈良県吉野町 産業・観光参事>

田畑 夏子さん<(一社)日本スローフード協会 Slow sake プロジェクトリーダー>



円卓会議の様子

## 林業の低コスト化に向けて ～民有林関係者と現地検討会～

### 【技術普及課】

近畿中国森林管理局では、国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所関西支所との共催により、10月11日（木）～12日（金）に、コンテナ苗や一貫作業システムによる造林・育林コストの削減をテーマとする現地検討会を岡山県新見市内で開催しました。この現地検討会は、同支所と平成25年度より、民有林関係者の方々を対象として開催しているもので、今年度は、2日間で延べ195人に参加いただきました。

我が国の人工林は戦後造成され、今、まさに利用期を迎えています。しかしながら、木材販売収入に比べて造林・育林経費が高いことがネックとなり、伐採利用が進まない、伐採しても再造林されずに放置されるといった問題が生じています。

その対策として、伐採から植栽までを一体的に行う一貫作業システムは、伐採と地拵（じごしらえ）・植栽を別々に実施していた従来型の作業と比較して、地拵の省力化及び低コスト化が期待できる施業方法です。

また、根鉢付きのコンテナ苗を使用することにより、従来の苗木では適さない夏でも植



意見交換の様子

栽が可能なことから、この一貫作業システムを実施できる機会を増やします。苗木単価が高いという課題が残されているものの、植栽に技術を要さず、短時間で植栽できることから、労務作業が軽減できるといったメリットもあります。近畿中国森林管理局では、コンテナ苗による一貫作業システムを導入しています。

今回の現地検討会では、1日目は、コンテナ苗や一貫作業システムに関する基礎知識、コンテナ苗の活着・生育実証試験の結果やコンテナ苗の生産効率化のための取組などについて説明しました。

2日目は、<sup>いりがいやま</sup>入開山国有林に会場を移し、平成26年度に植栽したコンテナ苗の生育状況の確認やコンテナ苗の植栽体験を行っていただきました。



コンテナ苗植栽体験

参加者からは、コンテナ苗や一貫作業システムを推進していきたいが、コンテナ苗の価格低下や安定供給体制の確立が必須である、伐採と造林の業者が異なる場合に連携が難しい、実際の作業工程についてもっと知りたいといった声が聞かれました。このような課題・ニーズを踏まえつつ、今後とも、現地検討会の開催等を通じて、林業の低コスト化に資する情報発信に取り組んでまいります。

## 里山広葉樹林の活用・再生に向けて ～森林総合研究所関西支所公開講演会でのPR活動～

### 【技術普及課】

近畿中国森林管理局では、「里山広葉樹林活用・再生プロジェクト」に取り組んでいます（詳しくは、森のひろばNo.1107トピックスを参照）。

10月19日（金）に開催された森林総合研究所関西支所公開講演会「広葉樹林はお宝になるか？～有効活用の可能性を探る～」について、近畿中国森林管理局も、共催するなど、開催に協力しました。

有識者による基調講演の後、森林総合研究所関西支所のプロジェクトの成果として、広葉樹の資源量評価手法や用途に応じた材積の推定方法、近畿地方における広葉樹の活用状況等について報告がなされました。

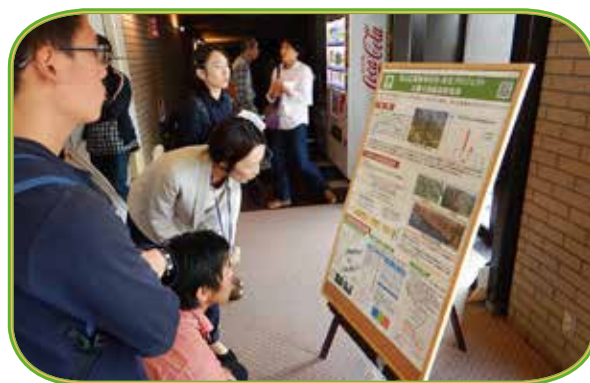
その後行われたパネルディスカッションには、近畿中国森林管理局の善行森林整備部長もパネリストとして参加し、局プロジェクトの概要とこれまでの成果・課題を報告し意見交換を行いました。

まとめとして、広葉樹の有効活用は、機運が高まっているもののまだ多くの課題があり、それを解決していくためには、広葉樹の管理

活用に関する人材育成や山側と使う側のミスマッチを解消するためのコミュニケーションが重要であることなどが共有され、閉会となりました。

また、会場のロビーにおいて、局プロジェクトのポスター展示を行いました。里山ボランティアをされている方、木工をされている方、広葉樹製品を製造している企業など、多くの方に足をとめてポスターをご覧いただきました。持参したアベマキ材のサンプルを手にとって、予想していたよりずっと材質が良い、カシ材に似ているといった感想を話される方もおられました。

今回の公開講演会には、265人の参加があり、広葉樹の利用への関心が高まっていることが分かります。



ポスター展示

今後も、里山広葉樹林の活用・再生のシステムの確立に向けて、プロジェクトに取り組むとともに、上手くいった点や難しい点など途中経過も含めて、積極的に情報発信を行ってまいります。



パネルディスカッションの様子

## 「極楽の森」を 高野山国有林 よみがえらせよう!

### 【和歌山森林管理署】

10月13日(土)に極楽橋森林整備プロジェクト実行委員会主催のイベント「第19回極楽の森をよみがえらせよう!」が開催されました。

このイベントは、高野山を訪れる観光客の皆さんに「世界遺産・高野山」の玄関口である極楽橋周辺の豊かな自然景観を楽しんでもらうため、平成21年から国有林をフィールドとして当署と極楽橋森林整備プロジェクト実行委員会との間で「社会貢献の森における森林整備等ボランティア活動に関する協定」を締結し、毎年7月と10月に森林整備を実施しています。

紅葉はまだでしたが、総勢36名の参加者があり、中には親子で参加して下さった方もおられ、秋晴れの中、気持ちよく作業が始まりました。



草刈り作業の様子

夏に成長した草が勢いよく繁茂していましたが、皆さん手慣れた感じで、鎌を使用して草刈りを行い、イベント開始から1時間程で見違えるほど綺麗になりました。

草刈り作業終了後、和歌山森林管理署の井上署長から「皆さんに毎年整備してもらっているおかげでだいぶん木も大きくなり、良い景観になってきました。本プロジェクトは参加者を募り皆で森林整備を行うことに意味があると思います。」との挨拶でイベントを閉会しました。



上手に刈れました

また、イベント終了後、当署主催の木工教室を開催し、「モックン」を作りました。どんな大きさ、どこに口を付けるかなど考えて色々な「モックン」ができ、イベント参加の良い記念になったと思います。



親子で「モックン」作り

当署では、今後も同実行委員会と連携しながら、極楽橋周辺の豊かな自然を守り育てていくこととしています。

## 工夫を凝らして観察会 加賀海岸自然休養林

### 【石川森林管理署】

加賀海岸自然休養林（浜山国有林）は、石川県加賀市の加佐ノ岬から塩屋海岸に至るマツの海岸林で、日本海の荒波が作りだした海食崖や白砂青松の美しい景観から、平成29年に「日本美しい森 お薦め国有林」に選定され、また「越前加賀海岸国定公園」にも指定されており、毎年多くの人々が美しい景観を目当てに訪れています。

10月16日（火）、橋立地区まちづくり推進協議会（以下「協議会」という。）の主催により、加賀海岸自然休養林観察会（以下「観察会」という。）が実施されました。

この観察会は、平成初期より協議会から石川森林管理署へ協力依頼があり、地元の小学生を対象に故郷の歴史や自然などへの理解が育まれることを目的として実施されています。

今年は、加賀市立橋立小学校4年生児童27名が参加し、署員4名が講師を務めました。児童は3班に分かれて、海岸林に自生する樹木の説明を受けながら観察を行いました。

今年から、紙芝居形式の資料を導入し、視覚的にも理解が深められるよう工夫を凝らしました。また、ワークシートの中に問題提起を入れ込むことにより、児童たちが受け身の

学習だけでなく、自ら考え、課題解決に挑戦できるようなプログラムを構成しました。

「海岸の松林がなくなったらどうする」という課題には、児童から「引っ越しする」というユーモアを混じえた回答もありましたが、「マツの苗木を植え直す」というしっかりした回答もありました。



職員が作成した説明

振り返りの時間では「樹木には色々な特徴があったり、海岸林が私たちの生活に役立っていることがわかった」や「海岸林を守る活動に参加してみたい」などの声が聞かれ、児童たちの樹木や海岸林に対する興味や関心の醸成はもとより、今後の積極的な活動に期待させられました。

今後とも、国有林野を活用した森林環境教育などへ積極的に協力していくとともに、継続的に地域の皆様と海岸林を保全する活動や普及啓発などを行い、地域の活性化にも貢献できるよう取り組んでまいります。



紙芝居を使った樹木の説明



課題解決に挑戦

## 第9回 春日奥山古事の森 (校倉を学び校木作りを体験)

### 【奈良森林管理事務所】

10月23日(火)、東大寺総合文化センター等において第9回「春日奥山古事の森」普及啓発イベントを開催しました。

「春日奥山古事の森」は、我が国の木の文化の象徴ともいえるべき神社仏閣などの歴史的木造建造物の修復に必要な木材の供給を目的として、若草山に程近い地獄谷国有林内に、平成16年3月に設定しており、この古事の森の取組や森林と木の文化との関わりとその重要性などを普及啓発することを目的に、春日奥山古事の森育成協議会が主体となり、毎年イベントを開催しています。

当日は、一般公募で申し込みいただいた方をはじめ、建築や歴史を学ぶ大学・専門学校生にも参加を呼びかけ、85名の参加を得て講演会と校木作り体験を行いました。

開会にあたり、協議会会長の春日大社伊勢権宮司から「単に森を守るのではなく、いかに継続して育て使っていくかが大切で、校倉あぜくらについて、どのようにして三角形の木を切り出したのか、本当に割れるのかなど、昔の人の苦勞も理解していただきたい」との挨拶がありました。



講演会の様子

続いて協議会委員であり、今回のイベントの企画や会場の提供など協力戴いた東大寺の橋村執事長から「植物として生えている木が、建物を造るにあたって材木として変わっていく瞬間を、校倉の話と校木作り体験で感じていただきたい」と歓迎の挨拶がありました。

講演会は、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 准教授の海野 聡氏から「古代校倉の特殊な建築技術と木材」と題して、古代建築の基本構造や校倉建築の特徴などについて分かりやすく説明していただき、校木を三角形とした理由はまだ不明であり今後の研究課題であるなどの興味深い話がありました。

校木作り体験は、会場を東大寺本坊に移し、奈良県文化財保存事務所、(株)尾田組、はいしま 靄島工務店の宮大工の方々にご協力いただき、直径約30cm、長さ1mのスギの丸太を、ノミやクサビを使い打ち割る体験をしました。宮大工の方へ日頃の仕事内容や道具などについて熱心に質問したり、木が割れると大きな歓声や拍手が起こるなど、日頃見ることない様子をカメラに収める方も数多くおられました。参加者からは「普段できない貴重な体験ができ来てよかった。また参加したい。」などの沢山の喜びの声があり、木の文化とそれを継承するための技術の大切さを知る一日となりました。



校木作りに挑戦



## 大山国有林で自然観察会 (大山開山1300年際記念)

### 【鳥取森林管理署】

10月27日(土)、大山国有林において、豊かな自然を満喫し、併せて開山1300年の歴史にふれあい、親しんでもらうことを目的に、一般公募により家族連れやグループなど12名が参加して自然観察会を開催しました。

観察会は、当日は雨模様であったことから一部ルートを変更し、大山ナショナルパークセンターを出発し寂静山、大神山神社及び当署の治山の工事現場を経て同センターへ戻るルートで行いました。

大山寺参道では、開山1300年の歴史を感じられる寺院の遺構や、地蔵を間近に見ることができ、カメラに収めていました。天候は次第に回復し、案内役を務める大山森林生態系保全管理協力員から、森林生態系保護地域に生育する希少な植物や樹木の種類、生息する野鳥の生態について説明があり、手に触れたり、メモをとるなど、熱心に学習していました。



大山森林生態系保全管理協力員の説明

大神山神社で昼食後、大山寺を經由し、当署が実行中の治山工事の現場を見学してもらいました。治山事業の目的、大山における治山事業が大正時代から行われ100年以上の歴史があるとの説明に一様に驚いていました。



説明に聞き入る参加者のみなさん

その後、大山寺参道を下り、寒い天候でしたが予定していた時間で全員元気に帰着しました。参加者からは、「少し寒かったが、普段見ることの出来ない樹木や植物が見られて楽しかった。」「大山の自然と歴史を体感することが出来た」、「来年も開催してほしい、今度は家族と来てみたい。」と感想があり、好評を得た観察会となりました。



## キノコで秋の恵みを感じよう (森林を考える岡山県民のつどい)

### 【岡山森林管理署】

10月27日(土)岡山県津山市において、「森林を考える岡山県民のつどい」が開催されました。このイベントは、森林の保全や美しい森づくりを推進するとともに、林業の振興と地域材の需要拡大を図ることを目的としています。

19回目を迎える今回は、林野庁長官 牧元幸司氏による基調講演会も開催されました。基調講演会では、「林業・木材産業の成長産業化に向けて」を演題に、日本全体の林業に見られる明るい兆しや「森林経営管理制度」や「森林環境税(仮称)」といった新たなシステム、また、それらを踏まえた今後の林野行政における地方自治体の果たす役割の重要性について判りやすく解説いただき、会場を沸かせました。基調講演会の大盛況ぶりは目を見張るほどで、その来場者は約400名にも上りました。



牧元 林野庁長官の基調講演会

野外会場では、木工品や林産物のほか、ホルモンうどんや黒豆バーガーといったご当地グルメなど様々な出店テントが軒を連ねるなか、岡山森林管理署では、つるかご教室や木工クラフト教室、そして「きのこ教室」を実施しました。

きのこ教室では、前日に職員が採集した色とりどりのキノコや、紙粘土で製作した模型キノコ、キノコに関するクイズパネルの展示を行いました。展示物は参加者から大きな注目を集め、入れ代わり立ち代わり、「どれが食べられるキノコなの?」「毒キノコの見分け方は?」等、多くの方々から様々な質問を受け、とても活発なきのこ教室となりました。



参加者にとっても関心のある「きのこ教室」

今回は、岡山県内の国有林で職員が採集した、キノコをはじめとした多種多様な森林の恵みを用いて、展示や教室等を実施しました。子供から大人まで、楽しみながら森林・林業の魅力や重要性を知っていただく良い機会になりました。



つるかご教室(上) つるかごと木工作品

## 山地災害復旧対策室 設置 (7月豪雨 復旧対策本格スタート)

### 【広島森林管理署】

平成30年7月6日から7日にかけて降り続いた豪雨により、広島県内では県南部の広い範囲で多数の土砂崩壊や土石流といった山地災害が発生し、人命・財産に甚大な被害をもたらしました。

この災害により、お亡くなりになられた方々には謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

特に東広島市においては、大規模な民有林からの山地災害に伴い山陽自動車道、国道2号線や広島国際大学など重要なインフラに被害が生じ、緊急な対策が望まれました。

このため、広島県知事からの国による早期の復旧整備の要請を受け、直轄治山災害関連緊急事業（以下、「直轄事業」という。）に着手することとし、10月1日に東広島市を管轄する広島森林管理署に「山地災害復旧対策室」（以下「対策室」という。）を設置しました。

対策室では、直轄事業と併せて、広島県東部の国有林治山事業も実施することとし、室長、副室長、職員6名、計8名による業務体制でスタートしました。そのうち5名は林野庁本庁、東北森林管理局、関東森林管理局、中部森林管理局、九州森林管理局から職員が派遣されています。

対策室の事務所は、直轄事業地に近い「広島県立総合技術研究所 農業技術センター」内に設置しました。

10月15日には、広島県上仲農林水産局長、地元の高垣東広島市長、栗久農業技術センター長など多数の来賓をお迎えするとともに関係職員等が出席し、同センターの会議室で開所式を執り行ないました。

開所式では、主催者である高野近畿中国森林管理局長が挨拶し、次いで来賓の方々から、国が直轄事業を受諾したことに対するお礼や期待、また対策室が事業を進めるに当たって最大限の協力を行いたい趣旨のご祝辞をいただきました。

その後津脇対策室長から事業概要の説明を行い、最後に、高野局長と西署長により対策室の看板を事務所入口横に掲げました。



高野局長（左）と西広島森林管理署長による看板設置

対策室は、今後地元関係機関や局署と連携しつつ、応急対策工事を早急に行うとともに、本格工事の実施に向けた準備を進めるなど、地元の期待に応えるため全力で業務を推進していきます。



# シリーズ 『国有林 最前線！』

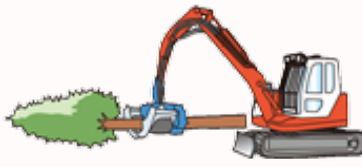
## 資源活用課

## ～林業の現場で活躍する機械～

近年、路網と林業機械とを組み合わせた搬出方法が定着してきました。現在、全国で8千台以上の高性能な林業機械が導入され、林業の現場で活躍しています。

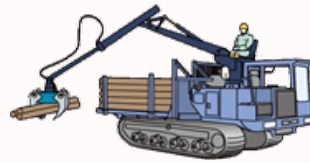
### 【プロセッサ】つかむ→枝払い→切断→集積

- ① 伐り倒した木をつかみ、ローラの回転で送り出しながら、装備しているカッターで枝を払います。
- ② 枝を払った木を送り出しながら、装備しているチェーンソーで指定した長さに切断し丸太にします。  
※丸太として切断する長さは自由に決めることができ、例えば3mと指定すると12mの木は、数分で3mの長さの丸太4本になります。
- ③ 切りそろえた丸太を長さごとに分けて積み重ねます。



### 【フォワーダ】積み込む→不整地を運ぶ

- ① 装備しているグラップルクレーンを使い、丸太を積み込みます。
- ② トラックが走行できる林道まで運搬します。  
※ゴムクローラが装着されており、不整地でも難なく走行できます。



## 兵庫森林管理署 波賀森林事務所

## 森林官 川畑弘樹

波賀森林事務所は、兵庫県中西部の宍粟市波賀町に所在しています。町の森林面積は15,083haで人工林が72%を占めています。そのうち国有林は面積6,533ha、人工林率70%で戦後植林された人工林が伐採適期を迎えております。

また、音水渓谷や赤西渓谷の景勝地、日本の滝百選の原不動滝など自然や風景が四季折々の風情を織りなしています。赤西渓谷の奥地には医学的に裏付けされた森林浴効果が得られる赤西セラピーロードがあり、森林を利用して心身の健康維持・増進、疾病の予防を行うことを目的として、多くの方々が森林に親しんでおられます。

今年度の国有林野事業としては、皆伐・搬出間伐併せて5,430m<sup>3</sup>の木材生産を予定しており、伐採から植付までの一貫作業による、低コスト森林整備にも取り組んでおります。植付けを行うに当たっては、シカ被害が多く獣害防護柵による植栽木の保護が必要不可欠となっております。シカ対策は今後森林整備を行っていくうえで重要課題となっており、猟友会との協力のもと、シカの捕獲などにより健全な森林を目指し、防護柵の点検・補修等を日々行っております。



森林セラピー（赤西国有林）